

医療経営研究センターの活動について

梶原 晃¹

1. センターの設置趣旨

本学では2017年より学内研究会を立ち上げるとともに、翌2018年にはビジネス研究所内に「医療経営分室」を設け、病院管理・医療経営に関する文医融合研究プロジェクトを継続的に実施してきた。2021年4月にはこれらの組織を改編し、病院・診療所等の経営問題を専門に取り扱う「医療経営研究センター」（以下、当センター）を医学部内に新設して、さまざまな現代的課題（患者の権利擁護・医療従事者の働き方改革・診療報酬改定の影響分析等）に引き続き取り組むとともに、新たに出現したCOVID-19による医療施設経営への影響とその対応策について、情報提供とコンサルテーションを行うユニットとしてK-MAC(Kurume Medical Advisory & Consulting)もあわせて開設し活動してきた。

当センターでは常に「現場」に軸足を置きつつ、医系のみならず文系の英知も集結して、医療施設に関する経営分析結果の蓄積とその解釈の方法論の開発を通じて、①この分野での研究拠点としての役割を果たすこと、②その研究成果は学会・研究会での発表や学術論文等として公刊するだけでなく、K-MACを通じて外部にアドバイザーサービスとして提供すること、③大学院医学研究科等と連携して地域における医療経営・病院管理のスペシャリストの育成を図ることの3点をミッションとしている。

2. 本年度の活動実績

本年度もコロナ禍で活動が制約されるなか、当センターの初年度としては以下のような活動を行ってきた。

2-1. 医療経営・病院管理研究

・大学病院等の経営分析とセミナーの開催

本年度も昨年に引き続き、大学病院等の医療施設を取り巻くさまざまな経営課題について調査・研究を行うとともに、その研究成果を公刊してきた。また、当センターの主催が恒例となっている「今から学ぶ病院管理・医療経営セミナー」は、本年度は2021年10月

1 久留米大学 文学部 情報社会学科

23日・24日の両日にオンライン形式で実施し、約100名の参加を得て好評のうちに終了した²。

・診療所における経営情報システム導入の実態調査

メルコ財団（現・牧誠財団）の研究支援を受けて、診療所・小規模病院における経営知識の獲得と管理会計システムへの応用プロセスの調査・研究を実施した。このプロジェクトは久留米大学医学部同窓会の全面的な協力を得て行ったもので、その成果は「診療所における経営知識の獲得と経営情報システム導入に関する調査研究」として「久留米大学医学会雑誌」に近日掲載予定である。

2-2. 大学院教育・リカレント教育

・大学院教育への貢献

本年度も昨年に引き続き、当センターのメンバーが本学大学院医学研究科へ出講した。昨年度の科目開講は「医療経済学」（修士1単位）および「医療経営」（同1単位）であった。本年度は修士課程科目の単位数をそれぞれ2単位に倍増させるとともに、博士課程にも「医療経済学上級」（2単位）および「医療経営上級」（2単位）を開講し、質量ともに充実を図った。

・学部教育への貢献

本年度より当センターの主要メンバーが本学商学部へも出講した。開講科目は2年生向けの「経営学特講Ⅰ」（医療政策・医療経営）および「経営学特講Ⅱ」（病院管理）（各2単位）であった³。

2-3. 社会貢献とアドバイザーサービスの提供

社会貢献の一環として、外部の医療施設等への各種情報やアドバイザーサービスの提供を行っている。本年度は地域の中核である基幹病院の中期経営計画の策定支援を行うとともに、診療所等の小規模医療施設に対して経営情報システムの導入支援を通じて医療DX化へのサポートを行った。

3. 次年度以降の活動方針

本年度の活動実績を踏まえ、来年度以降は以下のような方針で活動を計画している。

2 このセミナーについては、本誌に別途掲載の「セミナー研修会概要及び資料集・アンケート結果等」（佐藤敏信）に詳細な説明がある。

3 この講義については、本誌に別途掲載の「商学部における講義：ケースメソッドを取り入れた医療経営の講義・実習」（山口圭三・青木浩樹）に詳細な説明がある。

3-1. 医療経営・病院管理研究

・医療経営・病院管理研究の推進と成果の公表

これまでの実績を発展する形で、医療経営・病院管理研究上の課題解決へ積極的に取り組むとともに、その研究成果をセミナー等で引き続き発信する。シリーズ化しているセミナーについては、これまでの短期集中セミナーの形式を見直し、その対象者やテーマ・内容について、より受講者のニーズにあったものを実施できるか検討していきたい。

・医療の均てん化プロジェクトの本格始動

昨年度から神戸大学工学研究科・経済経営研究所と当センターで共同して実施してきた医療の均てん化プロジェクトが文科省科研費補助金基盤B「権利のストック効果計測のための医療均てん化施策の包括的分析手法の構築」として採択された。来年度はその初年度となるため、これまで以上に当該プロジェクトに対して積極的に取り組んでいきたい。

3-2. 大学院教育・リカレント教育

・大学院教育への貢献

来年度も本年度に引き続き、本学大学院医学研究科修士課程には「医療経済学」（2単位）および「医療経営」（2単位）の2科目を、博士課程には「医療経済学基礎」（2単位）、「医療経営基礎」（2単位）、「医療経済学上級」（2単位）および「医療経営上級」（2単位）の4科目を開講する予定である⁴。

・研究会活動の開始

来年度からは、上記大学院のレギュラー講義に加え、テーマごとにアドホックなワークショップを開催し、医療経営・病院管理に関心をもつ医師の参加者を募り、大学院の活性化にもつなげたいと考えている。具体的なテーマ例として想定しているのは以下の通りである。

【資源・組織】 人事・労務、接遇・サービス改善の提案、事業承継・M & A・多角化

【市場・戦略】 将来推計人口などを用いた患者数の将来推計、社会医療診療行為別統計などを用いた経営ベンチマークの作成、経営・マーケティング・ブランディング戦略の策定

【金融・財務】

実践的な会計全般の知識（収益・費用・資産・負債の各マネジメントや利益管理 など）

お金の知識（個人のマネーリテラシーやフィナンシャルプランニングなど）

クリニックの資金調達や税務の知識（所得税・法人税・消費税・資産税・相続税 など）

【技術・知識】

4 修士課程の「医療経済学」（2単位）および「医療経営」（2単位）と博士課程の「医療経済学基礎」（2単位）および「医療経営基礎」（2単位）は共通開講する予定である。

医療経営研究センターの活動について（梶原）

産業医業務を行う上でのポイント、レセプトデータを用いた研究の進め方、など。

・学部教育への貢献

来年度も本年度に引き続き、商学部開講科目の「経営学特講Ⅰ」（医療政策・医療経営）および「経営学特講Ⅱ」（病院管理）（各2単位）を提供する予定である。

3-3. 社会貢献とアドバイザリーサービスの提供

・医療施設へのアドバイザリーサービス提供の本格化

次年度以降も、外部の医療施設等への各種情報やアドバイザリーサービスの提供を積極的に行う予定である。具体的には、クライアント病院の経営計画策定や実施にかかるモニタリング支援を行うとともに、診療所等へのDX化支援を継続してすすめていきたい。